

リハビリテーションチームへの関わり

○近藤麻衣子¹⁾ 浮田絵美¹⁾ 表文恵¹⁾ 瀬戸学¹⁾高張康介²⁾ 小出真一郎²⁾ 奥原宏一郎²⁾ 杉野浩²⁾

1) 庄原赤十字病院医療技術部 生理検査技術課 2) 同 循環器科部

【はじめに】 臨床検査技師が包括的心臓リハビリテーション（以下、心リハ）へ携わり始めた 2013 年 7 月から現在の業務内容と関わりについて報告する。

【背景】 当院では 2009 年 1 月入院患者を対象として、心大血管リハビリテーションが開設された。2013 年 7 月心肺運動負荷試験（以下、CPX）が導入された。2015 年 4 月心リハ専任医師、看護師、理学療法士、薬剤師、臨床検査技師、栄養士、メディカルソーシャルワーカー、医事課からなる心リハチームが結成され、入院患者のみ行われていた心リハが外来患者でも行われるようになった。

【心リハ概要】 心リハの対象者は、急性冠症候群（以下、ACS）・慢性心不全等の症例で保険適応のある患者。

ACS では ACS の心リハパスに従って、その他の疾患では病状に合わせて運動療法が行われる。病状が安定し運動負荷試験が可能と判断された患者に対し、最適な運動処方のため CPX を行う。CPX が困難な場合は、時間内歩行試験を行う。退院後、外来通院可能な患者は外来で心リハが継続される。外来心リハは、2～5 ヶ月の期間で運動療法を中心に行われる。外来心リハの開始時・2 ヶ月後・終了時に心エコー・運動負荷試験等を行う。

【業務内容】 臨床検査技師は、心臓カテテル検査のモニタリング、心エコー、血液検査等の通常業務に加え、理学療法士と協力し運動負荷試験を行う。

CPX では心リハ専任医師監視のもと、負荷前から終了までの心電図モニター監視と記録を行っている。理学療法士は、呼気ガス分析を担当している。

時間内歩行試験では 6 分間で歩行できる距離、安静時・負荷直後・負荷後 3 分の血圧、心拍数、SpO₂、胸部・下肢症状を計測・記録している。

また、週に 1 度心リハカンファレンスに参加し、患者の心肺機能の変化や心電図、心エコーの経時的な変化、および今後の方針などを話し合い、情報交換の場としている。

【利点】 心リハチームに臨床検査技師が参加することで、心カテ・心エコー・運動負荷試験など患者の一連の検査結果を把握できるメリットを活かして、他のスタッフに情報を提供することができる。

また、他の職種と情報交換をすることにより、電子カルテからはわかりにくい運動能力や整形外科的疾患について情報を共有することができる。

【結語】 当院は、高齢者の多い地域で、心リハ対象者の中には超高齢者が多くいる。より安全な検査を行うため情報交換を行える心リハチームへの参加は、安全で適切な医療を提供できると考える。

今後も医師、理学療法士や多職種の連携を図り、チーム医療の一員として取り組んでいきたい。

連絡先(0824)72-3111(内線 2220)